



theme

# 「50年デザイン住宅」

## ～50年後の未来にも支持されるデザイン～

「100年住宅、200年住宅」という私達にとって解りやすいキーワードが

解りやすい指標として一人歩きしていますが、

国の掲げる「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」のように、

必ずしも絶対的な表現ではないという面もあると思います。

「家を大切に使っていきましょう」という意識を国民に浸透させるためのキーワードとしては優れています。

しかしあくまで目標としての言葉でしかないと思うのです。

実際その住宅を建築した後に、設計を行った人は100年後の住宅を見ることは出来ません。

そこで当コンソーシアムでは、設計者が実際に検証出来るという観点から、

あえて「50年」に設定いたしました。

今評価され、50年後の未来にも評価されるのならば、その後の未来も評価されるはずです。

現実的に表現できるこのテーマでこそ、これからの住宅に必要な事であると考えます。

# design condition

## 建物の配置から仕様まで、総合的に提案してください。

テーマをふまえ、建築・販売を前提とした住宅であること。敷地に対する景観を最大限に考慮したデザインで間取りは、家族条件を考慮し、近隣住民とのコミュニケーション等、公共的な視点にも配慮すること。将来的にデザイン住宅増大に寄与することをめざしたもの、下記項目を満たすこと。

### テーマの解説は自由です。設計主旨でご説明下さい。

- 木造在来工法で建築可能な建物であること  建築に関わる各種法令などを遵守すること

### 敷地概要

北陸地方のある地域を想定（特に考慮すべき気象条件は定めません）

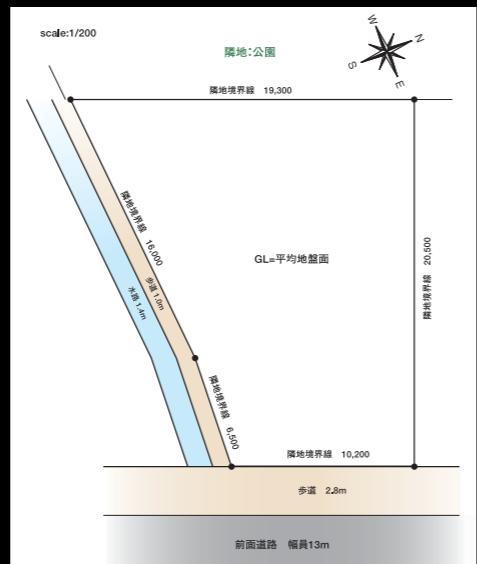
- 用途地域／第二種中高層住居専用地域
- 容積率／200%
- 建蔽率／60%
- 敷地面積／296.91m<sup>2</sup>
- 地盤の高低差／なし
- 地区計画／境界より1mセットバック（外壁面）

### 家族条件

30代夫婦 子供2人／小学校低学年・保育園

将来的には妻の両親と同居する予定あり。

※上記項目より細部にわたる条件については、常識の範囲内で各自想定のこと



### 提出内容

#### 1次審査 ○設計主旨(1200文字程度にまとめる)

- パース（カラープリントまたはカラーリンター出力）データ入稿は不可。
- 設計図面（縮尺は1/100）[各階平面図・立面図（4面以上）・配置図（屋根伏せ図を兼ねる）]

※質疑については6月末までメールにて受け付く。主催者および審査員が特に必要と認める質疑に対しては7月中旬にHP上にて回答致します。

これら全てA3横位置(297×420mm)4枚以内に納めて、綴じない、横置き平面で提出すること  
JACS新潟事務局まで提出。

JACS新潟事務局 ☎950-0148 新潟県新潟市江南区東早通1-1-40（ステーション内）「2009設計コンペ係」宛 Tel.025-383-3003 Fax.025-383-3733

表現方法は、鉛筆、インキ、着色、写真貼付、プリントアウトなどいずれも自由。但しバネル化しないこと。※送付に当たって書類を丸めず平面で提出すること

#### 2次審査 ○模型

縮尺:1/50、サイズ:W60cm×D60cm×H45cm以内（ベースを含む）、重量:5kg以内（ベースを含む）  
JACS東京事務局まで提出。※ケースに入れて展示する為、規定サイズを厳守して下さい。

JACS東京事務局 ☎136-0072 東京都江東区大島1-30-3 「2009設計コンペ係」宛 Tel.03-3685-8484 Fax.03-3685-2514

※搬入費用は応募者負担のこと。また提出模型の返却はいたしません。

### 応募にあたっての注意事項

- 応募は1人に付き1点（グループでの応募も可能）
- 応募作品は未発表の作品であり、他のコンペに提出していないものに限ります。
- 設計主旨・図面は、規定のサイズに印刷出して応募してください。
- デジタルデータの応募は認めませんが、応募作品は、Web上にて公開いたしますのでデジタルデータを預めご用意下さい。（jpeg・bmp形式のみ）
- 提出する設計主旨、設計図面、模型には裏面に氏名を記入して下さい。

# state

## 応募総数 132校 367点

（一次審査通過作品数:30点）

### 北海道地方

北海道  
札幌建築デザイン専門学校  
室蘭工業大学  
北翔大学

### 関東地方

東京  
共立女子大学  
慶應義塾大学  
慶應義塾大学SFC  
慶應義塾大学 大学院  
工学院大学  
工学院大学 大学院  
駒沢女子大学  
実践女子大学  
実践女子大学 大学院  
芝浦工業大学  
芝浦工業大学 大学院  
首都大学東京  
多摩美術大学  
東海大学  
東京家政学院大学  
東京芸術大学 大学院  
東京工業大学  
東京工業大学 大学院  
東京工芸大学  
東京大学  
東京電機大学  
東京電機大学 大学院  
東京都市大学  
東京理科大学  
長野  
信州大学  
愛知  
愛知淑徳大学  
大同工業大学  
大同工業大学 大学院  
大同大学  
大同大学 大学院  
中部大学  
豊橋技術科学大学  
名古屋学芸大学  
名古屋工業大学  
名古屋工業大学 大学院  
名古屋大学  
名古屋大学 大学院  
名城大学

### 東北地方

山形  
東北芸術工科大学

### 中部地方

新潟  
新潟大学  
新潟工科専門学校  
石川  
金沢工業大学  
金沢工業大学 大学院  
金沢科学技術専門学校  
福井  
福井大学  
福井大学 大学院  
長野  
信州大学  
愛知  
愛知淑徳大学  
大同工業大学  
大同工業大学 大学院  
大同大学  
大同大学 大学院  
中部大学  
豊橋技術科学大学  
名古屋学芸大学  
名古屋工業大学  
名古屋工業大学 大学院  
名古屋大学  
名古屋大学 大学院  
名城大学

### 近畿地方

大阪  
関西大学  
近畿大学  
近畿大学 大学院  
修成建設専門学校  
大阪芸術大学 通信教育部  
大阪産業大学  
大阪市立大学  
茨城  
筑波大学  
埼玉  
日本工業大学  
日本工業大学 大学院  
CAD製図専門学校  
群馬  
前橋工科大学  
前橋工科大学 大学院  
神奈川  
神奈川大学  
横浜国立大学  
東京大学  
横浜電機大学  
東京電機大学 大学院  
東京都市大学  
東京理科大学  
東洋大学  
日本大学  
法政大学  
武蔵野美術大学  
明星大学 大学院  
明治大学  
明治大学 大学院  
早稲田大学  
早稲田大学 大学院  
ICSカレッジオブアーツ  
桑沢デザイン研究所  
専門学校東京テクニカルカレッジ  
デザインファーム建築設計スタジオ  
東京工科専門学校  
日本工学院八王子専門学校  
山脇美術専門学院

滋賀  
滋賀県立大学 大学院  
成安造形大学  
和歌山  
和歌山大学 大学院  
京都  
立命館大学  
立命館大学 大学院  
京都橘大学  
京都工芸織維大学  
京都工芸織維大学 大学院  
京都造形芸術大学  
京都大学 大学院  
京都精華大学  
京都建築専門学校  
京都建築大学校  
兵庫  
神戸大学  
神戸大学 大学院  
兵庫県立大学

### 九州地方

福岡  
九州大学  
九州大学 大学院  
西日本工業大学  
北九州市立大学  
北九州市立大学 大学院  
福岡大学

大分  
大分大学  
大分大学 大学院

熊本  
熊本大学  
熊本県立大学  
鹿児島  
鹿児島大学  
鹿児島大学 大学院

### 海外

アメリカ合衆国  
カリフォルニア大学バークレー校

### 中国地方

広島  
広島工業大学  
広島工業大学 大学院  
広島大学  
広島大学 大学院  
穴吹デザイン専門学校  
穴吹情報デザイン専門学校  
吳工業高等専門学校  
島根  
島根大学

# 最優秀賞「活動のかべと小さなコシツ～50年デザイン住宅、領域の変化に住む～」



日本大学 生産工学研究科建築工学専攻

**加藤 尚裕**



## Concept

住宅を長く使うためにはどうしたら良いか、まずはこの疑問に尽きると思います。スケルトンインフィルのような内部構成の柔軟性や老朽化に伴うメンテナンスを考慮した計画では、近年ではそれほど珍しくありません。しかし、戸建住宅では工事にかかるコストや工期の問題などから、なかなか思い通りにいかないのが現状ではないでしょうか。

そこで、渡しは物理学な柔軟性を追求するのではなく、領域の変化によって様々な空間の使い方が可能となるようなイエを考え、「活動のかべ」と「小さなコシツ」で構成された新しいイエを提案します。「活動のかべ」と「小さなコシツ」によって住空間は領域を変化させて幾通りもの間取りを柔軟につくすことが可能になります。「活動のかべ」と「小さなコシツ」との間に幅1300mmの「ひとりの活動」の領域をつくりながら、イエ全体をぐるりと囲います。屋根形状と共にカベの高さを変えながら住空間に回遊性を与え、様々な行為を誘発します。



「小さなコシツ」にはとびらはありません。「活動のかべ」に対して開くことで、プライバシーを保つつも家族の気配を感じ取れる住空間を可能にしました。「小さなコシツ」ゆえに行はるは「カベ」へと移り、物や活動はあふれ出します。日々の生活の中で、意外と多い「ひとりの活動」。情報化が進む中、常に変化する将来の「ひとりの活動」の質というものを考え、個人のプライバシーのあり方を50年後の未来の住空間に提案します。

「活動のかべ」と「小さなコシツ」による領域の変化によって、住空間は計画の意図を超えて自由に形を変えながら成長していきます。



# 最優秀賞「森の集合家族」



慶應義塾大学SFC 環境情報学部

菊地豊栄・平野奈々子



## Concept

樹木の様に枝葉が広がり、根底で家族がつながる新しい家

家族とは、樹木の様に成長してゆく。子供たちは月日と共に親から離れ、新しい家族を築いてゆく。それに伴い、家族の生活スタイルも変化してゆく。

しかし、家族が離れてかた初めて感じる家族の大切さ。この変化。つまり家族の成長とともに徐々に自立していく変化を一つの家で表現できないか。そこで考えた、新しい家の形が樹木の力強い根の様に、地下で家族全員が集合し、自由に伸びる枝の様に、地上で個々が自由に生活する。

これが「森の集合家族」である。

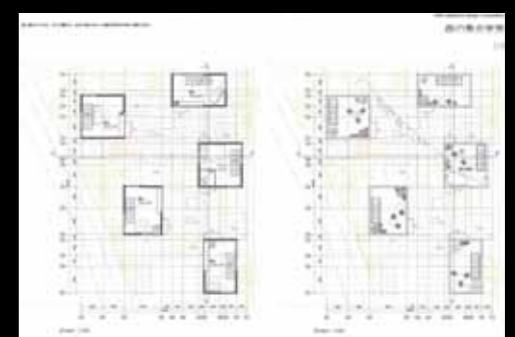


森のような多様性を持つ家

”森”は、周りがどのような環境であってもそれに応じて馴染んでゆく。

周辺環境が自然豊かであれば、それと同化する。自然が乏しければ、その貴重な森は周りの人々の人目を引き心を癒す。つまり、森は周りの環境によって様々な顔を持つ。

「森の集合家族」も時代と共に変化してゆく家族や周辺環境の中で、森の様にその環境に馴染む家となってゆく。



# 協賛者賞「House/Apartment」



工学院大学大学院 工学研究科 建築学専攻

**鈴木 宏**



## Concept

家族の構成に対応しながら住宅が変化する。家族内で消化できない場合は賃貸にすることで対応できる。住宅内に賃貸可能な余剰空間を作つておくことで家族が増えたときに対応が可能になる。両親との同居の際にもある程度の距離を持ちながら同居することができる。家族の変化に他者を介入させることで柔軟に変化する住宅とすることができる。ハウスでありアパートメントである。さまざまな状況に対応できるこの住宅は50年後にも100年後の未来にも対応しうる住宅である。



# 優秀賞



横浜国立大学 工学府 社会空間システム学専攻

**廣岡 周平**

「傾斜する家付のガレージ」

## Concept

一本の長いスロープを持つガレージに家がついているような提案。郊外の住宅において50年という時間を考えるにはモビリティについて考えることが有効である。50年間でモビリティは買い替えられたり、家族が増えたり減ったりする中でモビリティも増えたり減ったり、進化してセグウェイなどのように人に近いものも生まれてくるだろう。

住宅がモビリティと生活を内と外で分け隔てるのではなく、もっと密接に内側へモビリティを引き込むことで車の変動に応じておおきな半内部の空間を大きなアトリエのように使えたり、二世帯の距離感をうまくつなぎ介護における利便性があがつたりとモビリティを前提とした郊外のライフスタイルをもっと楽しむことが出来るだろう。



金沢工業大学 環境・建築学部 建築学科

**中野 賢二**

「n-oshiire house」

## Concept

わたしが提案するのはn-oshiire型の住宅です。この住宅が可能とするのはoshiireを中心としての生活です。n-LDKのLDKに変わるoshiireを家族で共有しながら生活します。個人の生活スタイルを尊重しながらも、家族のつながりをつくりだすことを意図しました。oshiireという住宅における最もプライベートな領域であり、生活に必要不可欠な収納という役割をもつ場を共有することで、家族につながりをつくりだします。oshiireは押入れの機能を持ちますが、洋服ダンスであったり、本棚であったり、つくえであったりもします。そして、oshiireには変化が表れます。それは、昼と夜のような短い時間に起こったり、春と秋のような長い時間でおこる模様替えであったり、また、家族構成の変化など数十年という単位で起こったりします。この変化にあふれるoshiireを家族で共有しようとするのがn-oshiireです。



東京理科大学 理工学研究科 建築学専攻

**中村 大地**

「Under the roofs, on the roofs」

## Concept

50年後の未来でも受け入れられるデザインとして、起伏のあるランドスケープのような住宅を提案する。

一階を公園と連続したピロティーとし、屋上まで様々な形の屋根が突き抜けるヴォイドを考えた。このヴォイドは、例えば木漏れ日が降り注ぐようなピロティーを、例えば山林を散策しているような二階を、例えば雲海に浮かぶ山々の様な屋上テラスを作り出す。そしてそれら異なる質の各階は、ヴォイドによって外部環境や他階と柔らかく関係づけられる。

床を盛り上げるという単純な操作によって、今までにない空間の多様性を実現するとともに、新しい身体性を確保することを試みた。

※掲載の順番は整理番号順となります。得点順ではありません。  
※コンセプト文章は一部を抜粋したものとなっております。

# 優秀賞



工学院大学大学院 工学研究科 建築学専攻

## 橋本 ひとみ

### 「音漏れHOUSE」

#### Concept

50年という時間的長さは色々なものをかえていくのだろうと考えました。一つ屋根の下では、家族構成の変化やそれに伴うライフスタイルの変化などが起こることはわかりきっていることとも言えます。なので、逆に変わらないものは何だろうと考えたところ、決して変わらないことがあると気づきました。それは、音です。

家の中では主に、食べる／寝る／話す／聞く／熱中する／歩く、という行為を行っています。住宅の中で行う行為から発生する音は、たとえ年齢を重ねようとも、新しい家電製品を購入しようと、その本質はまったく変わらないのです。

また、この「音」とは気配という意味も持ちます。各部屋から中の音（気配）が聞こえるように、この住宅には扉は設けませんでした。

十分な奥行きと『曲がった空間』を設けることで、独立した室をつなぎつつ、プライベートも確保出来るようになっています。

変わらないものをデザインし、考慮することで、様々なに変化していくものに対応していく。視覚的に繋がるのではなく、音というごく身近な生活要素によって空間をデザインすることで新たな暮らし方を提案します。



近畿大学大学院 システム工学研究科 システム工学専攻

## 増田 晋

### 「かわるものかわらないもの -機能を並べる-」

#### Concept

今回のプランは中に入ると大きな棚が並んでいてそこに機能が収まっているようなイメージである。部屋を区切るような壁はほとんどなく棚に置かれる物の密度に依存している。また、棚に置かれた物は柔らかにそこがどんな機能をもつ場所なのかを示す。そしてその周りはリビングになったりダイニングになったりと物が動けば機能も動き、物が増えればその機能のスペースも拡張していく。そんな生活の中で住んでいる人の構成が変化していくければその棚に置かれる物も、置かれる場所も変わっていく。それはその人たちが自分のお気に入りの場所を発見し、自分の住宅を自由にデザインしていく事になっていくと考える。それは今まで多く造られてきたnLDKのプランのように人の生活を部屋の機能で拘束してしまうようなイメージではなく、自由にのびのびとした生活を生み出していってくれるのではないかだろうか。

時間が変化し、人が変化し、住宅もそれに合わせて変化していくようなプランを創りたかった。



金沢工業大学大学院 建築学専攻

## 小田 真也

### 「うねうね あぜみち」

#### Concept

あぜ道のような曲がりくねった庭と住宅。敷地に対して建物を建て、植栽を配置する従来の建て方ではなく、先に緑を配置し、林のような敷地を作ります。住宅は緑に寄り添うように、細長くうねうねした形で配置されています。

敷地にできた林は、家の中どこにいても外部を意識できると共に、窓を開ければ、ダイニングやリビングの延長としても使うこともできます。時には友人やお隣さんを誘ってバーベキューをしたり、日曜大工をしたりと様々な役割を果たします。また、木々の木陰によって温度差が生まれ、絶えず新鮮な空気の循環が起きます。

便利な設備機器に頼りすぎるのはなく、自然の恩恵によって、住居や周囲の環境にもちょっとした潤いをもたらし、自然を中心に家族が生活し、共に成長していく住宅です。

※掲載の順番は整理番号順となります。得点順ではありません。  
※コンセプト文章は一部を抜粋したものとなっております。

# 優秀賞



名古屋大学大学院 環境学研究科 都市環境学専攻

亀嶋 一矢

「伸び縮みする家」

## Concept

現代の住宅は、外部に対して閉じたハコになっており、一人一人が自分の部屋に閉じこもってしまう。プライベートであるのをいいことに、住宅はどんどん閉鎖的になっていると思います。

50年間そこに住宅があり続けるということは、その地域と50年を共にするということです。一つの住宅がそれだけで完結せずに、公園や、将来隣に建つであろう住宅との関わりを持てることが大切だと考えました。

細長い家を折りたたむことで、外を介入させ、そこに切り妻屋根をかけ、昔の日本の住宅にあった、土間や屋根裏のような、機能を持たない、外とつながったひとつながりの空間ができます。

そこは、部屋に収まりきらない機能やアクティビティを許容する場所であり、離ればなれになった家族をつなげる緩衝空間になります。

家族の生活が家の中で伸び縮みすることで、家の外にもその様子が見え隠れする。まるで家が伸び縮みしているかのように。



日本大学工学部 建築学科

石賀 悠也

「暮らす丘」

## Concept

使われない“部屋”をなくすことはできないだろうか

この住宅の個人室はスロープの踊り場にあるため、日中は家族の空間となります。

個人室は自分が一人になりたい時にだけ生まれるため、閉じる行為が家族に対する意思表示となり、気配を感じる生活につながる。さらに、個人室は必要最小限のスペースで構成されているため、使い手が家具を分類するようになります。

「自分の部屋にあってほしいもの」「家族と一緒につかえるもの」「家族以外の人に見られてもいい(見せたい)もの」などに分類された家具は、個人室を越えて外ににじみ出でていき、時代とともに変わらざる生活像を映し出す。

このように、新たな個人室のあり方は、新たな住まい方を誘発し、外に対する発信源となる。



大阪産業大学 大学院工学研究科・環境デザイン専攻

桃野 紀子・Bechetoille Soizik

「T(h)ree House」

## Concept

今日、私たちの生活環境は瞬く間に変わっていくのに対し、住宅の形はほとんど変わっていません。現在から50年後までずっと支持されるには、不变であるものと変化するものの両方が必要だと考えます。

これまで、日本の家族構成やあり方は変化し続けてきました。情報化社会において、仕事のスタイルが変わり、今後更に変化し続け、会社員であっても家で仕事をする社会になりうることが考えられます。生活スタイルや家族環境が変わっても、それに合わせて住宅の形とあり方も常に進化していくなければいけないと考えます。

一方、家族同士のコミュニケーションや周辺住民との関連性は、昔の日本に比べて、随分希薄になったと言われていますが、コミュニケーションは常にとり続けていくべきで、住宅によって関連性が断たれることはあってならないことです。むしろ、個人の観点を大切にしつつ、住宅によってコミュニケーションを促すものにするべきだと考えます。

また、環境問題に関して考慮することも必要です。今の住宅は高機密高断熱性ですが、太陽光発電や浄水装置を使ってエネルギーとして取り入れるだけでなく、灯りや風など室内環境として、上手く自然と付き合っていくことが大事だと考えます。

※掲載の順番は整理番号順となります。得点順ではありません。  
※コンセプト文章は一部を抜粋したものとなっております。

# 入賞



大阪大学 工学部 地球総合工学科  
**辻本 知夏・中野 舞**  
「HI\*TO\*HITO」

## Concept

敷地と周辺地域、家の内部と外部、それらの境界をあいまいにすることで、家の内部から周辺地域までをゆるやかにつなぐ。

50年経っても、100年経っても、地域の中に家があり、その中に人があることは変わらない。地域の人たちが自然とひ

とつになるきっかけとしての住宅を提案する。



千葉大学大学院 工学研究科 建築・都市科学専攻

**村井 勇介**

## 「風の通り道」のあるイエ

## Concept

50年後も変わらないものー敷地南側の細い水路とその水路にそよぐ風。その風を遮ることなく住宅内に取り込むことを考えた。住宅内を水路の軸線に沿って2つに分割することで、その間に風の通り道が生まれる。両側に個室が並び、そこを抜けた先には家族が集まるリビングスペースがある。各

個室にはリビングスペースと空間的な繋がりを持ち、個室からはリビングに向けて生活が飛び出し、その間をゆるやかな風が通り抜ける。風が家族を包み込み、空間と空間の繋がりをより強める。過ごす人の居場所がさまざまに生まれ、家族との適度な距離感を保てるようなイエを目指した。ひとりひとりが状況に応じて様々な距離を取りながらもどこか繋がっている関係が生まれることを意図している。



山脇美術専門学院 インテリアデザイン科

**五十部 嘉代**

## 「FFhouse」

## Concept

この住宅の骨格をなすのはリビング・ダイニング・キッチンが一体となったリニアな形態のスペースです。天井が2階へと続く大きなスペースです。

このスペースに個人のための小さなスペースがぼこぼこと取り付きクラスターを形成しています。個人のスペースは壁

などで仕切られていません。個人のためのスペースはコモンスペースである大きなスペースとは明確に分けられているにもかかわらず、密接な関係を持ちます。ここで大事にされるのは家族のあり方です。個人個人の生活を尊重しながらも中心にあるのは家族です。個人が自分の行動をとりながらも、常に見える、すぐ話せる状態になります。こういったお互いの精神的な開放感こそ家族にとって大事なものと考えます。



信州大学大学院 工学系研究科 社会開発工学専攻  
**加藤 光・藤岡 佑介**  
「風と光の通り道」

## Concept

1Fの内部空間の形状を変化させ、同時に、上下方向に貫かれた斜めのヴォイドを設ける。これらにより、スムーズな空気の流れを促し、四季を通じて良好な室内環境を維持することができる。また、この斜めのヴォイドは、空気の流れを促すだけでなく、自然光を取り入れることができる。イエ型建築

は、それ自体のボリュームが大きくなるにつれて、下階の中央部に自然光が入りづらくなり、明るさが不十分となる。それに対し、この斜めのヴォイドは、直接的な自然光だけでなく、その空間を囲む斜めの壁により、自然光の反射光も取り入れることができ、過剰な自然光を避けながら、やわらかな光で下階の明るさを保つことができる。

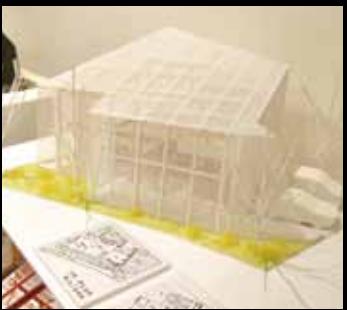


首都大学東京 都市環境学部 建築都市コース  
**下錦田 聰志**  
「中心のない家 ~livingのない生活~」

## Concept

50年デザイン住宅は50年後を見つめることではない。1、2、3、...、20、...、30...。40年後とずっと住み続ける。今ある住宅におけるリビングは重要である。家族でテレビを見たり、食事をしたり、くつろいだり、と生活の中心にあるのがリビングである。

そこで今回わたしが提案するのは、生活の中心であるリビングという場所がない住宅である。この住宅に住む家族は天候、季節、家族構成によって生活の中心は変化をして、それに応じてリビングの位置も変化する。



日本大学大学院 生産工学研究科  
**伊藤 顕・宇野 彰**  
「みどりのカマクラ しろのカマクラ」

## Concept

変化し成長していく住宅を構成するには外部からの環境要因を受け入れる為のデザインが必要である。現状の住宅は、外部の要因を遮断する性質が強い為に周囲の環境を受け入れることが出来ない。そこで、壁を(内皮と外皮)の二つに分離する。

・内皮:室内空間を作り出す透明素材(ガラス)、外皮:中間領域を作り出す透過性素材(パンチングメタル)(内皮と外皮)による中間領域の層を作り出すことで従来の壁としての役割を持たせることが可能になり室内環境は保たれたまま時間によって変化していく姿の建築となる。これらのデザインによって、季節ごとの環境と調和した住まい方が出来る。



東京電機大学大学院 未来科学研究科建築学専攻  
**松井 時是**  
「box in the box」

## Concept

50年という時間の中で変化するものは多い、住む人の年齢、家族構成、人間関係周辺環境...。だからこそ住宅も変わり続けなければ生けない、「Box in the box」は時間の変化とともに箱の周辺が変化する。それによって、箱の機能は新しく生まれ変わる。そんな変化し続ける住宅。



日本大学芸術学部 造形芸術専攻 建築デザインコース  
**黒崎 真由・遠藤 泰介**  
「plan construction」

## Concept

生活構成を包容する建物内部にどのような選択性を与える。ピロティにより浮かんだ住戸は中心から多様に広がるアクセスが可能となる。[ヒエラルキー]のように、従来の玄関を入りリビングを通して、それぞれの個室に向かうという空間構成から、個室を手前側に配しリビングを奥側に配置するという

既存のヒエラルキーを逆転させた。そうする事で最もパーソナルな個室空間はそのままに直に外部へと繋がり、階層的には一番プライベートな空間になるはずの場所にリビングを配置する事で個室から2方向性に繋がるヒエラルキーを作り出し、居住者に生活の幅を与える。



首都大学東京 都市環境学部 建築都市コース  
**清水 一馬・木村 智行**  
「更新を継承する家」

## Concept

敷地内に世代ごとのゾーンが存在し、その時点で住んでいる世代のゾーンに部屋を作る。住む世帯が変われば部屋は増築・減築され、住まう家族の形とともに住宅も姿を変えていく。これは4世代に限らずループしていく可能性を持っている。

# 入賞



慶應義塾大学大学院 政策メディア研究科 小林博人研究室

## 中島 成隆

### 「ラッパと卵」

#### Concept

現代においては、人は実に様々な空間を必要としています。外に対して明るく開放的な空間が欲しいこともあります。プライバシーを尊重した安心出来る空間が欲しいこともあります。戦後の日本では、それまで無かった、壁で区切られた個室が生まれ、私たちは開放的な空間も閉じられた空間も体験して

います。50年後の未来には、この相反する空間への要求がより増して行くでしょう。そこで私は、ラッパ型の空間と卵型の空間を並べることで、プライバシーの保たれた明るい部屋達の間に外部が入り込んでくる開放的な空間を配置しました。また、その空間を太陽の方向に向かって立体的に曲げることで、どの部屋にも光の落ちる明るい家型の住宅を設計しました。



芝浦工業大学 建設工学専攻

## 徳田 直之

### 「トンガリ船」

#### Concept

50年という時間が経過するに従って人間関係は次第に広く、また深くなっていく。同時に、別れも訪れる。その時の経過を刻み込む家を設計した。そのキャンバスになるのが、この家がもつ、三つの「大きさ」である。

1.大きな公園、2.大きな本棚、3.大きなトンガリ屋根。

北陸に建ち、氷山のように切り立つ屋根を持った家は、三つの大きさと共に時の流れをがっしりと抱え込む。変わらない場所が変わり続けているような、いつまでも楽しませてくれ、それでいて手間を取らせてくれそうな家である。

いやしかし、それこそ、住宅に住むということなんだろう。その家が今、時の大海原を出港しようとしている。



東京工業大学大学院 理工学研究科 建築学専攻

## 清水 忠昭・富岡 由貴

### 「住む家/暮らす家」

#### Concept

従来、「住む」と「暮らす」の機能が住宅内に散りばめられていた。この場合、機能が細かく区切られ、家族や時代の変化に対応しにくい構成のため、長年使われ続けることが難しい。

一方、我々は、「住む」と「暮らす」という視点で住宅の機能を整理し直し、『「住む」家を「暮らす」家で包んだ住宅』を提案する。

50年という長い時を経ても変わらない「住む」という住宅の基礎的な機能のまわりを、様々に変化するであろう「暮らす」という柔軟性のある空間で包む。こうすることで、50年の間で「住む」家には取りきらぬ「暮らす」という豊かさを受け止める「50年デザイン住宅」を目指す。



東京電機大学大学院 未来科学部 建築学科

## 田中 和沙

### 「大きな屋根の木の下で」

#### Concept

リビング、ダイニング、キッチンと個室3部屋と和室、水廻りによって構成されています。

それぞれの部屋を敷地条件から4つに分散させ、その間の空間を動線と風邪の通り道にしました。マチとつながる混じりあつた場所が家族の集う場所となります。



立命館大学大学院 理工学研究科 創造理工学専攻 環境都市コース

## 木下 恵理

### 「別荘のある家」

#### Concept

別荘という場所には、人々が日常の喧騒を離れ、思い思いの暮らしが楽しめる時間が流れています。仕事から離れて気分転換やリフレッシュの為に趣味に没頭する、生活時間がすれば違う親と子供が、週末と一緒に楽しむ空間。日々の仕事や勉強を日常、別荘での暮らしを非日常と定義します。非日常での暮らしは、日常への活力となり、日常生活を豊かにすることにつながります。

住宅内に異なる生活環境を与えるだけで、日常と非日常の空間をつくることができるのではないか。

別荘のある家は、距離感を喪失しつつある社会において、日常と非日常が同時に発生する、未来にも支持されていく住宅だと考えます。



東京都市大学大学院 工学研究科

## 大矢 英作

### 「(無題)」

#### Concept

とにかく、現在の住人にとって必要な広さで、豊かな空間をつくること。はじめから、将来を見越して、大きな家を作る必要はない。将来、どうやって増築していくかを考える。減築することだってありうる。そうすることで、建築は、家族構成に応しながら様相を変えながら、核となる場所は変わらずあり続ける。そんな住宅を目指した。



大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻

## 川合 美紗子・樋木 仁美

### 「カス棚イズ・ハウス」

#### Concept

一般的な家具としての「棚」を、人と人が距離をとるために緩衝物あるいは、生活においての居場所のバリエーションの一つとして、有効に利用する方法を提案します。この「棚」は、ふさぐこと聞くことも自由なのです。すなわち、壁であり窓であり扉となることが可能なのです。私たちは、その棚にもの

を収納することもできますし、通り抜けること向こうをみると、また棚のくりぬいた一部をベッドとして利用することができます。ひとりになりたいとき、そっと閉じこもる場所になる得るかもしれません。棚の向こう側とこちら側の閉じ具合によって視線を調節しながら閉塞感の少ない部屋をつくることだって可能でしょう。私たちが考えたプランでは特に、リビングと居室の関係性をゆるやかにつなぐことを提案しています。



工学院大学 工学部建築学科

## 加藤 直樹・島田 将宏

### 「Material house」

#### Concept

50年という年月を建築に刻む事はできないだろうか。そこに暮らす人々の思い出を住宅に残せないだろうか。母と一緒にご飯を食べたダイニング、弟と夜になるまで走り回ったテラス、父と夜遅くまで語り合ったリビング、全ての時を刻み込む家。住人と一緒に時を重ねる家は、materialに50年の思い出を包み込んでくれる。楽しい時、悲しい時、嬉しい時、つらい時、全ての時を刻みながら住人と一緒に成長する家を提案します。



審査会場には、一次通過者全員が集合。審査発表後には、審査員の建築家より、個別に作品の講評を得る時間もあり、学生の方たちは、先生方の話を真剣に聞き、自分の課題点、評価点を改めて実感させられていました。



## time schedule

エントリー締切 平成21年 7月31日(金) HPのみ URL : <http://www.JACS.cc>

1次応募締切 平成21年 8月14日(金) 必着 郵送 JACS 新潟事務局 〒950-0148 新潟県新潟市江南区東早通1-1-40 Tel.025-383-3003 Fax.025-383-3733

1次審査 平成21年 8月21日(金)～23日(日) 会場:トステム東京ショールーム(予定)

1次審査通過者にはメールで通知するとともに、ホームページ上にて発表。1次審査通過は30点を予定しております。  
※1次審査通過者は2次審査の準備をお願いいたします。

審査員の協議により選定いたします。【非公開】

2次エントリー締切 平成21年10月31日(土) 必着 郵送 JACS 東京事務局 〒136-0072 東京都江東区大島1-30-3 Tel.03-3685-8484 Fax.03-3685-2514

2次審査 平成21年11月14日(土)

公開審査 新宿パークタワー リビングデザインセンター OZONE

結果は各賞受賞者にメールで通知し、ホームページ上でも発表いたします。

審査員の協議により各賞受賞者を決定。【展示公開】

入選作品展示 平成21年11月12日(木)～17日(火) 新宿パークタワー リビングデザインセンター OZONE

下記賞品を受賞された方に差し上げます。

## prize

●最優秀賞(1点) ..... 賞金100万円 + ヨーロッパ研修旅行

●協賛者賞(1点) ..... 賞金 10万円

●優秀賞(10点) ..... 賞金 5万円

●入選(17点) ..... 商品券1万円

(1次審査を通過し、2次審査にエントリーした作品全てを入選とします。)

最優秀作品を始め各入賞作品のうち、  
設計者の希望するものについては、  
建築・販売を実現するため、JACSが全面的に  
バックアップ致します。

### 注意事項

- ・他の著作権に触れる画像、文書などの使用は認めません。・雑誌、書籍、ホームページからの無断借用も認めません。
- ・応募作品は一切返却いたしません、必要な場合はあらかじめ各自で複写しておいてください。
- ・本コンペの応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、入賞作品及び入選作品の発表に関する権利は主催者が保有します。
- ・入賞後の応募者による応募内容の変更は認めません。・入選入賞後に、著作権侵害などの疑義が発覚した場合、これを取り消します。
- ・応募作品にて著作権侵害などが発覚した場合、全ての責任は応募者が負うものとなります。
- ・審査の結果については、何人も異議の申し立てをすることは出来ません。

※応募に際して主催者側が取得した個人情報並びに提出物は、当コンペのみに使用されるものであり、その目的の範囲を超えて個人情報を利用する場合、事前に応募者にその目的を通知し、承諾を受けて行うものとする。

事務局

東京 〒136-0072 東京都江東区大島1-30-3 Tel.03-3685-8484 Fax.03-3685-2514

新潟 〒950-0148 新潟県新潟市江南区東早通1-1-40(ステーション内) Tel.025-383-3003 Fax.025-383-3733

※この応募要項に記載の事項に関して、変更等が発生した場合はHP上にて掲載いたします。